様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　２４年５月２８日現在

機関番号：24505
研究種目：挑戦的萌芽
研究期間：2009～2011
課題番号：21651108
研究課題名（和文）　日本におけるレズビアンの妊娠・出産：米豪レズビアンマザー情報の影響と日本の課題
研究課題名（英文）　Japanese lesbian Parenting: The Japanese issue in comparison with American and Australian lesbian

研究代表者
藤井　ひろみ（FUJII　HIROMI）
神戸市看護大学・看護学部・講師
研究者番号：50453147

研究成果の概要（和文）：
日本のレズビアンが米国・豪州で実現している生殖補助技術を用いた妊娠・出産・家族形成のライフコースと類似したライフコースを選択するようになった現状を、文献検討とフィールドワークによって明らかにし、日本と米・豪との比較を通して日本独自の課題を検討した。①日本国内で英語による妊娠・出産・育児に関する情報を活用できる情報アクセシビリティの向上をはかること、②レズビアンの家族計画に関する実態調査の実施、③同性パートナーシップの法的保障、の３点の課題が明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：
The purpose of this study is to develop knowledge to support lesbian who choose the life course of the pregnancy and the delivery in Japan. The method is fieldwork in Japan, United States, and Australia. This study reveals three problems in the Japanese lesbian's life course of the pregnancy and the delivery.
1) Accessibility to information from U.S. and Australia by English language,
2) Cross-sectional study of lesbian family in Japan,
3) Consensus of legal guarantee of same-sex partnership in Japan.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００９年度	1,200,000	0	1,200,000
２０１０年度	1,000,000	0	1,000,000
２０１１年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総　計	2,800,000	180,000	2,980,000

研究分野：複合新領域
科研費の分科・細目：ジェンダー・ジェンダー
キーワード：クィア・スタディーズ、女性学男性学、レズビアンマザー

１．研究開始当初の背景

性的指向とは、両性愛、異性愛、同性愛など、性的意識の対象が両性、異性又は同性のいずれに向かうかを示す概念であり、なかでも同性への性的指向は、1973 年に米国精神医学会が精神疾患分類から同性愛を削除したことに始まり、1991 年に WHO が疾病分類から同性愛を削除したこと、そして本邦に

おいては 1995 年に日本精神神経学会が WHO の見解を支持するなど、その医学的扱いが 20 世紀後半に大きく転換した（Faderman 1991）（LeVay 1996）（Spargo 1999）。

現在では、日本や世界の看護協会などが、性的指向に関わらない平等なケアの実施を倫理綱領に掲げているが、具体的なケア方法等は必ずしも明確になっていない。

特に同性愛者のうち、女性であるレズビアンについては、男性同性愛者（ゲイ）に比べてその健康問題に言及されることが少なく（水島 2004）、同性愛者の抱える困難について検討する際に、ゲイによって同性愛者を代表させることは、ジェンダー不均衡であると指摘されてきた（堀江 2003）。

筆者のこれまでの研究では、日本のレズビアンは同性愛者向けの健康情報を、ゲイ男性向けの媒体から得ている傾向があり、そのためゲイ男性向けの HIV 予防知識などの情報は得られても、妊娠・出産や乳がん、産婦人科に関する情報などが得にくい現状がみられた（藤井 2008）。レズビアンはゲイ男性と違い、妊娠・出産という生殖機能を持つ。1980 年代から 1990 年代以降に米国や豪州では、生殖補助技術を用いて妊娠・出産するレズビアンマザーと呼ばれる人々が、同性パートナーと子育てを開始する新しい家族に関する報告が増加した（Agigan2005）。米国や豪州のレズビアンマザーらは、異性愛指向の妊産褥婦と比べ、妊娠・出産・産褥・育児期のサポートの問題や、生殖補助医療を受けるリスクや費用の問題を抱えており、その支援方法の開発が研究されるようになってきた（McNair2003）。

２．研究の目的

以上のような背景を踏まえ、本研究は、日本においても、米国などの情報をもとに生殖補助医療を用いて妊娠、出産、子育てを指向するレズビアンに焦点をあてる。彼女らのリプロダクティブ・ヘルスの現状理解と今後の支援方法の開発を目指し、①日本のレズビアンがこれまで、米国・豪州で実現している生殖補助技術を用いた妊娠・出産・家族形成のライフコースをモデルとするようになった経緯を書誌的研究により明らかにすること、②日本におけるレズビアンの妊娠・出産・子育てに関して、現状調査に基づくグラウンデッドな理論が抽出されること、③この理論について、米国及び豪州のレズビアンヘルスサービスの専門家のヒアリングをおこない、日本における独自性を検討すること、を本研究の目的とした。

３．研究の方法

（１）日本国内におけるフィールドワークとレズビアン支援団体・運営者らのヒアリング

日本のレズビアンを対象に妊娠・出産（子育て）に関して、当事者団体へのフィールドワークを展開した。具体的には、主に都市部にある（東京・大阪）当事者団体の会合に参加し、団体運営者からの意見聴取及び参加者・場に関するフィールドワークを実施した。実施した主な団体は以下のとおりである。

・共生社会を作るセクシュアルマイノリティ支援全国ネットワーク
・女性とクイアのための情報センター
・クィア学会研究倫理ガイドライン（仮称）検討ワークショップ

（２）文献検討

日米豪のレズビアンの妊娠・出産（子育て）の現状を比較するため、文献検討を行った。参照したデータベースは、日本語文献は医学中央雑誌と CiNii、OPAC を、英語文献は Medline と Cinahl を用いた。

（３）米豪におけるフィールドワークと専門家のヒアリング

米国 San Francisco の Castro 地区周辺のフィールドワークと California 州立大学の研究者らのヒアリングを実施した。

豪州 Melbourne のフィールドワークと Melbourne 大学らの研究者らのヒアリングを実施した。

４．研究成果

１）国内の現状と米豪との比較の結果

（１）国内のレズビアンの現状

国内で実際に現在子どもを持つ人の割合を、先行研究の各種調査から推定した結果、国内のレズビアンの数％は子どもを持つものの、過去の婚姻関係において出産した事例がほとんどと考えられる現状であった。（表 1）

表１　子どものいる LGBT 調査結果

調査者	血縁と婚姻を超えた関係に関する政策提言研究会有志	真木柾鷹ら*	藤井ひろみ
発表年	2004年	2004年	2009年
対象者	同性間パートナーシップ当事者	性別違和感を持つ人	女性限定イベント参加者やレズビアン支援団体関係者
対象者数	n =683	n =77	n =104
子どもあり	9.1%	20.8%	7.7%

（２）米国と豪州のレズビアンの状況

一方、米国と豪州では、過去の婚姻関係において子どもがおり、その後にカミングアウトしたという事例よりも、当初からレズビア

ンとしてパートナーシップを持ち ART(生殖補助医療）を用いて妊娠を希望し、実際に妊娠・出産する事例が増えている。また、今後はさらに ART による妊娠を希望する者が増えていくことが推測できる。(表 2、3)

表 2　McNair(2003),Exploring diversity in lesbian-parented families, AIF を訳出

n=241 複数回答 %	子どもが生物学的父親を知ることができるから	経済的・時間的に利用しやすいから	パートナーに参加してほしいから	医療介入を最小限にしたいから	妊娠のコントロールは女性の権利と考えたから	妊娠を急ぐ必要があったから（高齢）	ドナーは匿名である方が良いから	安全性（感染などのリスクが低いから）	他の方法で妊娠しなかったから	不妊症と診断されたから	異性愛関係をもっていたときに妊娠したから	その他
性交 n=115	3	1	0	1	0	1	0	0	0	0	88	10
自分で人工授精 n=77	73	52	46	42	41	14	5	3	4	0	0	13
クリニックで人工授精 n=43	14	2	7	2	14	19	58	47	33	23	0	14
IVF/GIFT n=6	50	0	0	0	50	50	50	50	100	50	0	0

表 3　妊娠方法を選択した理由（豪州）

同上

妊娠方法	現在子どもあり n=255 (157世帯) %	今後の妊娠希望 n=89 %
過去の異性パートナー関係で妊娠・出産	51	2
自分で人工授精	31	45
クリニックで人工授精	17	40
IVF/GIFT	<1	11
その他	≪1	2

表 4　日米豪のレズビアンの育児環境比較

日本	US	Australia
同性婚(－)	同性婚(州により＋) 合衆国政府見解(±→＋)	同性婚(－)
Domestic Partner制度(－)	Domestic Partner制度(＋)	Domestic Partner制度(＋)
生殖補助医療の利用(－) ＊婚姻及び事実婚者はOK	生殖補助医療の利用(＋)	生殖補助医療の利用(＋)
特別養子(－)	養子制度(＋～－) 注1	養子制度(＋～－)
国勢調査(－)	国勢調査(＋)	国勢調査(－)
支援専門職団体:日本助産師会、日本看護協会に倫理項目あり	Institute of Medicine 等多数あり	The Ministerial Advisory Committee on Gay and Lesbian Health等複数あり

2）導き出された日本の課題

（1）現状における課題

以上から、日本の今後の課題は、

①・日本のレズビアンが英語での妊娠・出産・育児に関する情報を活用できる情報アクセシビリティの向上をはかること（accessibility)、

②・レズビアン各々が各自の家族計画をどのように行うのかについて、変化する実態の調査（survey)、

③・先行国で整備されたようなレズビアンカップル/親子/家族の法的保障に関する議論（consensus)、

であると考えられる。

これらのうち、①は米国のおよそ 10 年後からレズビアンの ART を用いた妊娠・出産が顕在化してきた豪州においては、課題とならなかったと考えられる点である。(表 4)

（2）中期的課題

3 カ国中最も先進する米国では、育児中のレズビアンらに対する子育て支援活動がはかられており（図 1)、こうした先駆事例をモデル的に取り入れることも、中期的課題になると思われる。

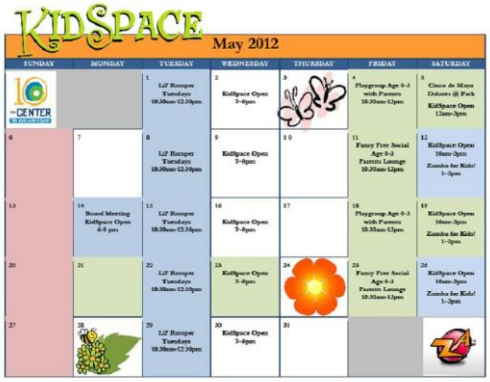

図 1　米国サンフランシスコ LGBT センターでの育児支援活動例

明らかとなった課題を踏まえ、今後は、当事者団体を基盤とした情報の翻訳紹介や、研究者らによる実態調査、活動団体による法整備への議論や社会的コンセンサスの形成といった、各エージェントそれぞれの立場と機能を活かした課題達成が複合的に成されることで、レズビアンの妊娠・出産、ひいては多様な女性のリプロダクティブヘルス・ライツの促進につながる。米・豪では、妊娠・出産・子育てをする一定数のレズビアンが、次世代育成に直接的に貢献しており、少子社会の中で多様な親として社会に参画している。

日本におけるこの分野の研究はまさに「萌芽」の段階であり、こうした新たな親の存在

が、社会を活性化していく効果については、今後の分析を要する。また、日本におけるこうした多様な親への子育て支援の実際や、親子関係の実態調査等も、今後の研究の課題である。

最後に、本研究はクィア学会倫理ワークショップ、National Center for Lesbian Right、SF LGBT community center、The Department of General Practice(The University of Melbourne)Dr. McNair の協力を得た。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）
①藤井ひろみ，女性同性間の性的接触と性感染症、性の健康、査読無、8 (2)、2010、26－29、
②藤井ひろみ、日本における女性間の性行動と性感染症－女性と性的接触をもつ女性への調査から－、日本性科学学会誌、査読有、28、2010、47－56、
③藤井ひろみ、レズビアン・バイセクシュアル女性である患者と医療者の相互作用に関する研究、神戸市看護大学大学院博士論文、査読有、2011、1－103、

〔学会発表〕（計３件）
①藤井ひろみ、日本における女性間性感染症予防に関する調査研究、第 29 回日本性科学会学術集会、2009 年 11 月 1 日、埼玉、
②藤井ひろみ、LGBT の性と生殖－当事者に見られる子どもに関するニーズ－、第 54 回日本生殖医学会学術講演会、2009 年 11 月 23 日、石川、
③藤井ひろみ、二宮啓子、レズビアン・バイセクシュアル女性である患者と医療者の相互作用に関する研究、第 31 回日本看護科学学会学術集会、2011 年 12 月 4 日、高知、

〔その他〕
１）ホームページ等
http://machi.iinaa.net/
http://www.nhk.or.jp/heart-net/lgbt/rensai/umaretekita/umaretekita_01.html
http://www.nhk.or.jp/heart-net/lgbt/rensai/umaretekita/index.html
２）成果報告会
2012 年 5 月 24 日神戸市看護大学ウィメンズヘルス勉強会
2012 年 7 月 22 日 NPO 法人 LGBT の家族と友人をつなぐ会

６．研究組織
(1)研究代表者
藤井　ひろみ（FUJII　HIROMI）
神戸市看護大学・看護学部・講師
研究者番号：50453147